

万博の成果を踏まえ、

ショットでは、閉幕後も長蛇の列ができるなど、グループの皆さんも本当に頑張つていただいたと思っています。

倉坂 万博期間中には、状況の変化やお客様のニーズを敏感にとらえ、信念と情熱をもつて挑戦されたようなお話を伺っています。例え

ーションでは、閉幕後も長蛇の列ができるなど、グループの皆さんも本当に頑張つていただいたと思っています。

倉坂 万博期間中には、状況の変化やお客様のニーズを敏感にとらえ、信念と情熱をもつて挑戦された

ようなお話を伺っています。例え

ば、大阪メトロさんの輸送障害時の対応もしかりです。また、うめきた発6時台の直行バスを運行したいという提案を社内の反対意見を押し戻して実行し、大変多くのお客様にご利用いただいたということもお聞きしました。



【福知山線列車事故から20年が経過しましたが、労使の最重要課題である安全の確立について、「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」が、2025年10月に折り返し地点を迎えました。この間の振り返りと今後に向けてのお考えをお聞かせください。また、心理的に安全なチームづくりの重要性についてもお聞かせください】

羽野 これまでの取り組みによって、組合員の安全に対する意識、安全考動の実践は確実に向上し、浸透していると思います。このことは、安全考動計画検証アンケートでも明らかになっています。夏に発生したカムチャツカ半島地震の際はもちろん、能登半島地震の際にもお客様を津波から守るために実践的な避難行動が訓練通りに実践できましたことは、素晴らしいことだと思います。

【福知山線列車事故から20年が経過しましたが、労使の最重要課題である安全の確立について、「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」が、2025年10月に折り返し地点を迎えました。この間の振り返りと今後に向けてのお考えをお聞かせください。また、心理的に安全なチームづくりの重要性についてもお聞かせください】

羽野 これまでの取り組みによ

り、組合員の安全に対する意識、安全考動の実践は確実に向上し、浸透していると思います。このことは、安全考動計画検証アンケートの結果も含めて、成果や課題等を明らかにし、引き

てないリスクは必ずどこかに潜んでいます。「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」を策定

以降、感電・墜落死亡、労災や触車死亡、労災、交通事故死亡、労災に

よって仲間の尊い命が失われ、いま

だに待避不良など死亡、労災にな

ります。

倉坂 2023年に策定した

「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」において、「安全

最優先の判断と行動」の実践と

もに、「お客様を想い、ご期待にお

応えする」ことを強く意識して、

安全性向上に取り組んでいます。

ハード面では、駅ホームや踏切の

安全対策、地震対策などを重点的

に進め、ソフト面では、現場の判断

を最優先するマネジメントの確立

やリスクアセスメントの質の向上、

心理的に安全なチームづくりな

ど、安全最優先の風土の醸成、組

織全体で安全を確保する仕組み

の充実、一人ひとりの安全考動の実

践に向けて、取り組みを推進して

います。

一方で、5年間を通じた目標と

この3年間は、北陸新幹線の敦

賀開業やうめきたエリアの開発、

北陸新幹線金沢・敦賀間開業効

果を高めるとともに、大阪・関西

博への取り組みを通じて、「私たち

の貢献など、心と未来を動かす

文化政策

化」を実現できた一年であつたと実感しています。

（4面へ続く）

労使トップ対談

西日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員長 羽野 敦之

司会 情政治
文化部

23年度に死亡に至る鉄道労災を2件発生させてしまいました。このことを重く受け止め、再発防止に努めているとともに、各組織で実行力の向上に向けた取り組みを継続しています。

「心理的安全性についてはどうで

しょう」

心理的安全性については、本来は経済学での概念で、何を言つても危険を感じない心理的に安全な環境では、議論が活性化し創造性が高まると言われています。

ただ、私たちは安全の領域で心

理的に安全なチームづくりを使つていてから職場での安全にかかることは、権威勾配を排しながらも言つてできる環境を作ることで、私たちが事故以降取り

組んでいきたいと思います。

そのためにはチーム全体で取り組むこと、上司・部下がお互いの立場や職制、業務内容を理解し、尊重し合い、認め合うことが重要です。JR西日本グループ全体で心理的安全な職場づくりに取り組んでいます。

さらに、「JR西日本グループ

鉄道安全考動計画2027」の達成に向けて、社員一人ひとりが安全行動を実践できるよう、職場での

上司・部下の良好な関係を構築

し、全社員个体となって更なる安全

性の向上に努めていくようにな

ります。

そのためにはチーム全体で取り組むこと、上司・部下がお互いの立場や職制、業務内容を理解し、尊重し合い、認め合うことが重要です。JR西日本グループ全体で心理的安全な職場づくりに取り組んでいきたいと思います。

そのためにはチーム全体で取り組むこと、上司・部下がお互いの立場や職制、業務内容を理解し、